



コロナ禍におけるジェンダー平等課題を考え、行動するフォーラム 2021/9/3

第1部 現状と実態

「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査」から みえてきたこと、持続可能な公務労働への転換を！

公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)代表 渡辺百合子

1.自己紹介



- 1973年 東京都墨田区役所に就職、1990年人事交流で港区役所に
(特別区の正規職員を33年、うち図書館に27年勤務)
- 2000年 非正規図書館員の研修・交流組織立ち上げに参加
- 2006年 港区役所退職、NPO法人げんきな図書館に転職
(図書館業務委託を請け負うNPO職員として非正規職員を11年)
- 2013年 NPO法人理事長(中野区と渋谷区の2区受託から渋谷区のみ)
- 2017年 図書館業務撤退、2019年5月法人閉鎖
- 2021年 はむねっと代表

【基本給与月額】 正規職員 → 非正規職員 → NPO法人理事長
429,900円(港区職員退職時) 217,000円(委託責任者) 0円

2.公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)とは



- 2021年3月20日に開催した緊急集会「官製ワーキングプアの女性たち コロナ後のリアル」の開催準備に当たったメンバーが中心となり、同日、ホームページ開設とともに立ち上げた。
- 3月20日の集会には、多くの団体・個人からの賛同や、深刻な現状の訴えが集まった。問題の解決に向けて「全国に散在する官製ワーキングプアの女性たちよ！団結せよ！」とより多くの人たちが手をつなぎ、声を上げていこうという熱い応援のメッセージが寄せられた。さらに、当初の予想を上回る賛同金が集まり、この先も、声を上げ続ける活動をやっていくようにという後押しを貰った。
- はむねっとは、女性を働き手として広がってきたこの公務非正規問題を解決していくため、公務領域で非正規で仕事に従事する女性当事者、働き手、また、この問題に関心を寄せる個人と共に、問題解決に向けた調査、提言、活動を行っていく。

3

3. はむねっとの活動

<https://nrwwu.com/>



◆会員現勢 会員数:24人、はむねっとメールメンバー:87人

◆活動内容

4/30～6/4 公務非正規労働従事者への緊急アンケート実施

5/4 緊急要望書「非正規公務員の統計から性別集計の表示をなくさないでください」を内閣人事局、総務省に提出

5/15 語り場(第1回)開催 語る人:学校司書

7/4 語り場(第2回)開催 語る人:ハローワーク相談員

7/5 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート1次結果報告」記者会見

7/27 要望書「メンタルヘルス調査対象に非正規公務員を加えてください」を総務省に提出

9/3 コロナ禍におけるジェンダー平等課題を考え、行動するフォーラム

9/7～9/19 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査・追加インタビュー」実施



第1回 語り場

4

4-1.公務非正規労働従事者への緊急アンケート

<https://nrwwu.com/survey-2/899/>



■調査の趣旨・目的

非正規で公務労働にかかわる当事者の生の声を、インターネットを通じて直接、かつ、広く集め、現状を明らかにすると同時に、社会に公務非正規に従事する人たちの現状を発信すること

■実施団体

公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)

■調査方法

インターネット(グーグルフォーム)によるアンケート

※無記名、メールアドレスの収集設定なし、必須回答項目は最低限に設定。

※勤務地記入は必須とせず、公表は、地域区分までにする配慮等を記載した。

■実施期間

2021年4月30日(金)~6月4日(金)

■対象

非正規で公務労働に従事している人

(2019年4月から2021年4月の退職者を含む)

※性別を問わず広く回答を求めた。

※主に、国・地方自治体及びその関係機関で働く非正規労働者を対象とした。

※大学等(国立大学法人、独立行政法人)の非正規教職員は対象外とした。

■有効回答数

1,252件(回答数 1,305件)

5

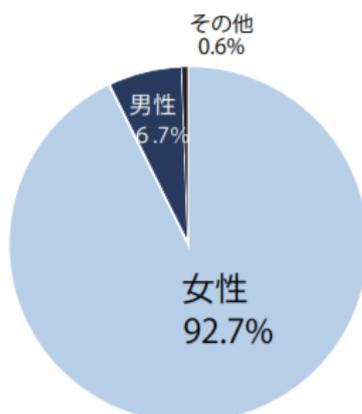
4-2.公務非正規労働従事者への緊急アンケート

<https://nrwwu.com/survey-2/899/>



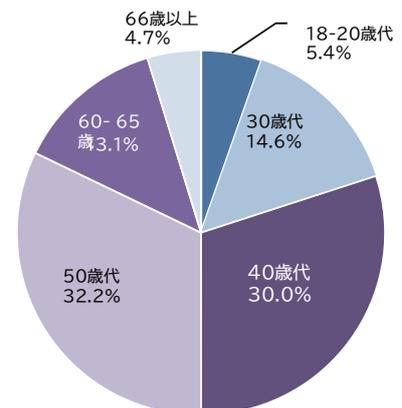
性別

女性	1,161人(92.7%)
男性	84人(6.7%)
その他	7人(0.6%)



年代

18-20歳代	67人(5.4%)
30歳代	183人(14.6%)
40歳代	376人(30.0%)
50歳代	403人(32.2%)
60-65歳	164人(13.1%)
66歳以上	59人(4.7%)



6

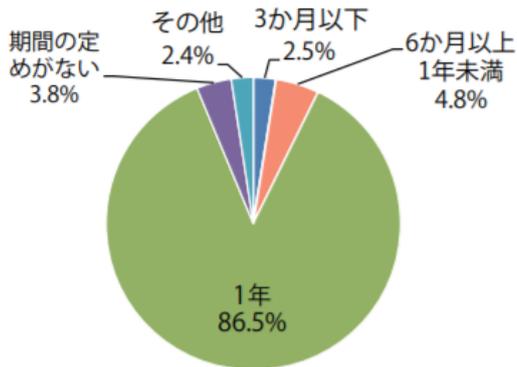
4-3.公務非正規労働従事者への緊急アンケート

<https://nrwwu.com/survey-2/899/>



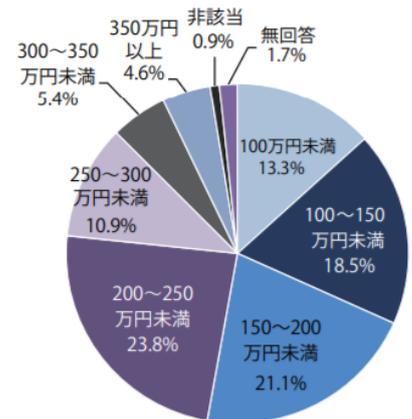
雇用契約期間

3か月以下	31人 (2.5%)
6か月～1年未満	60人 (4.8%)
1年	1,083人 (86.5%)
期間の定めがない	48人 (3.8%)
その他	30人 (2.4%)



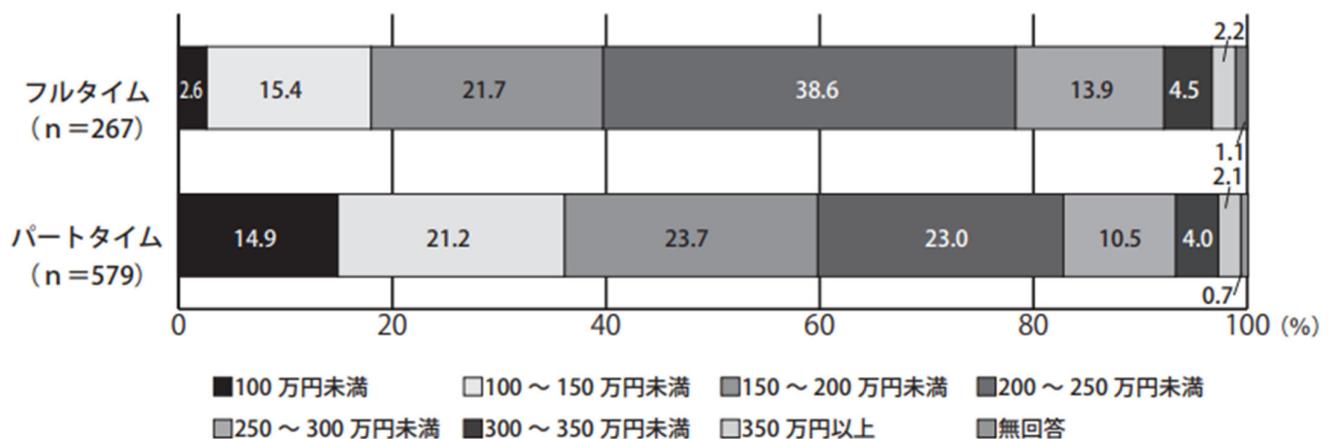
2020年(1～12月)の就労収入

①100万円未満	166人 (13.3%)
②100～150万円未満	231人 (18.5%)
③150～200万円未満	264人 (21.1%)
④200～250万円未満	298人 (23.8%)
⑤250～300万円未満	136人 (10.9%)
⑥300～350万円未満	67人 (5.4%)
⑦350万円以上	57人 (4.6%)
⑧非該当	11人 (0.9%)
⑨無回答	21人 (1.7%)



7

5-1.会計年度任用職員 任用形態別の2020年の就労収入はむねっと調査、追加集計(会計年度任用職員女性のみ)



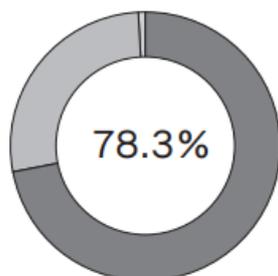
出所 | 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査結果と追加集計概要について」『生活経済政策』2021.9 No.296
<http://www.seikatsuken.or.jp/monthly/index.html>

8

5-2.会計年度任用職員 任用形態別の2020年の就労収入 はむねっと調査、追加集計(会計年度任用職員女性のみ)

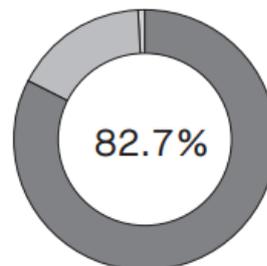


図6 フルタイムで250万円未満



■250万円未満 ■250万円以上 □無回答

図8 パートタイムで250万円未満



■250万円未満 ■250万円以上 □無回答

出所 | 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査結果と追加集計概要について」『生活経済政策』2021.9 No.296
<http://www.seikatsuken.or.jp/monthly/index.html>

9

5-3.会計年度任用職員制度導入の不利益変更



- 会計年度任用職員制度は、任用根拠の明確化と、処遇改善が目的として2020年4月に導入された。
しかし、アンケートからは制度導入により、不利益変更がもたらされたという声が多数寄せられた。
公務非正規労働従事者は、非正規であるために公務員法上の保障がなく、労働契約法やパート労働法も非適用であるため、「法の谷間」に置かれている。
- ・スタート時点で上限に達している人は昇給がない。勤務時間が30分短くなりパートタイムという区分に、退職金が出ない。改善されたはずが腑に落ちない。
- ・一昨年度「会計年度任用になれば昇給もありボーナスも出、年休も勤続年数に応じ加算される」と説明を受けた。今年になって「学校司書は8月に解雇になるので勤続年数はずっと1年未満のまま」と言われた。
- ・結局ボーナスやら退職金つけなくて良い様に、年数加算で賃上げしなくて良いよう調整されてるのが実情。
- ・今年度は理由もわからず勤務時間を年間30時間減らされた。それでもポストを保てただけ良かったと、胸を撫で下ろす。学校関係で、長期休暇の後の月の収入が僅か。
- ・フルタイムから月18日の1日7.5時間に労働時間を減らされた。新たに支給されたボーナス分を入れても年収171万円。同じ仕事をして3年間で、18万も年収が下がる仕事って？ 辞めていく人も多い。

10

6-1. 緊急アンケート 自由記述から

何らかの記述回答を行ったのは、1,148人(91.7%)



■人権無視

- 低賃金、サービス残業、やりがい搾取、正規・非正規間の差別、パワハラなど、なんでもありの状態。正規公務員は一度採用されれば定年まで居られるのに、その仕事を雇用の不安定な非正規が低賃金でカバーしていること、一般市民には見えにくい多くのことをこの世界に入って初めて知った。理不尽。
- 職場で唯一の専門職で判断を求められる立場、経験も20年近く、待遇は改善せず給与は手取り10万と少し。身を粉にして働いて評価も得ているのに、使い捨てられて救済されないまま終わってしまう不安。
- 公務員では困難な業務を民間に委託しているにもかかわらず、給与は半分から1/3。働いている人の人生設計を無視しているとしか言いようがない。
- 学校内での立場が非常に弱い。職員会議には出席出来ず、いないものとして扱われている。
- 「生活できてるならいいじゃん」って言われる。生活だけならできるけど生活しかできん。生活を楽しめる額じゃないし、未来に希望を持てる額じゃない。正職員にいいように使われる。こちら職員だし人間ですけど？って思う。「イヤなら転職すれば」って言うけど、そういう話か。正規雇用なんかマジ無理。

11

6-2. 緊急アンケート 自由記述から

何らかの記述回答を行ったのは、1,148人(91.7%)



■給与が低い

531人(42%)が、給与が低いと記入

- フルタイム会計年度任用職員で副業禁止なのに自立できる賃金がもらえない。仕事内容が補助的なものであれば割り切れるが、数年で異動する正規職員より経験年数が長く仕事を増やされるなど仕事内容は同じかそれ以上なのでやるせない。
- 会計年度任用職員になり収入は増えたが、扶養を外れ社会保険加入で、家計収入は減った。年収130万円を少し超える程度でも働かざるを得ない。同じ研修なのにフルタイムは報酬があり、パートは無償で不公平。
- 派遣会社でほぼ、県の最低時給(賞与なし、交通費なし)で働く。資格関係なく同一時給、1年ごとの契約更新、人不足で、やめられては困る会社でも、何かあれば即切られるだろう。公務に準ずる働きを求められるのに、給与は公務員の約1/2~1/3。窓口で最も市民に触れ合い、何が問題か、何が起きているか、何を必要なのかが分かっているけど、伝える術を持たない。(だって私達は業務を請け負い、ただ遂行することを求められているから)何も考えず、ロボットのように”正しく”遂行しろ。それが「非正規職員」かなあと思う。
- 年収は完全にワーキングプア。実家住まいで生活できているが、両親がいなくなれば即路頭に迷うので毎日不安。

12

6-3. 緊急アンケート 自由記述から

何らかの記述回答を行ったのは、1,148人(91.7%)



■労働条件が悪い、やりがい搾取、後継者が育たない 284人(23%)が、やりがい搾取であると記入

- 今の業務量や内容を学校に求めるのであれば、教員の倍以上の確保や非正規の正規化(または待遇の改善)が必要。
- ここ数年は非正規職員だけ配置されている。給与額に見合わない責任を負わされている。
- 資格(看護師、社福士)は考慮されず事務職。正規職員は、2~3年で異動しスキルも上がらず弱者への偏見意識も解消されない。相談業務にあたるのは自分だけ。子育てが終わり、時間や経済的に余裕ができたからやれる仕事で、ボランティア感覚。やりがいはあるが熱意だけでは、気持ちよく働けない。来年の仕事探しをしている。
- 実質は通年なのに、契約期間が3ヶ月。派遣会社はどこもみな社会保険が3カ月目から、わざと初めの契約を2ヶ月以内にしてくるし…
- 同僚の20代30代の方々を見ていると、このままではいけないと強く思う。皆さん本当にこの仕事が好きで、待遇が悪くても真面目に働いてる。やりがい搾取もいいところ。繁忙期だけ雇うわけではなく非正規雇用がいなくては職場が回らないのであればそれはもう正規雇用にするべき。彼女たちの頑張りがどうか報われるような社会になってほしいと思う。

13

6-4. 緊急アンケート 自由記述から

何らかの記述回答を行ったのは、1,148人(91.7%)



■長時間勤務、サービス残業 143人(11%)が、必要な勤務時間数が確保されていないと記入

- 常に勤務時間内で仕事は終わらない。勤務時間を超過する事が度々だが、残業代は支給されない。有給休暇はあるが、仕事はそのまま残されるので、休むに休めない。
- 7年働いて時給が10円しか上がらない。勤務時間内では到底終わらない業務で、残業や持ち帰り仕事がある。夏期休業中は勤務がなく、年収が100万を超えることはない。経験を積んだ先輩が毎年辞めていく。6年生に年収を答えたら「それじゃあ、生計が立てられないじゃん！」と言われた。
- 時間外分が振替休日扱い、緊急事態が続くと休日も取れない。一時保護など12時間かかってても時間外手当も、ねぎらいの言葉もない。時間外勤務が常態化で、Wワークもできない。
- 勤務上残業しても財源がないから手当はつかないと言われた。これは違反でしょう。組合にも訴えたが、なかなか改善されない。
- 週5勤務で、週35時間働いているが時給が900円、月の支給額が12万ほどしかない。残業しても、許可がなければ残業代は支給されないため、生活が苦しい。
- 低い賃金にもかかわらず、正社員と同様の仕事量でやりがい搾取を感じる。月平均30時間の時間外勤務が発生し心身共に辛いが、残業代がないと生活が回らない。

14

6-5. 緊急アンケート 自由記述から

何らかの記述回答を行ったのは、1,148人(91.7%)



■女性差別・パワハラ

190人(15%)が、女性差別やパワハラを受けていると記入

- 独身で親と同居。扶養範囲内で働くことに納得してる人もいるが、まるで女は結婚しないとやっていけないと国に言われているようで、仕事自体は好きだったので本当に残念。
- 「女性活躍推進」が、女性管理職や女性議員の増加という方向も違和感がある。その前に女性が多く従事している職種の価値を認め、待遇を相応に上げてほしい。
- 働き方の設定自体がパワハラだと感じるし、女性差別もひどい。仕事内容にはやりがいを感じているが、働き方の面では憂鬱になることが多い。
- 育休・産休の手当が非正規にはなく、休暇扱いも1年だけ。結婚し、子供もそろそろと話にあがるが、キャリア形成と子育ての両立支援について正規との差を思い知った。
- 非常勤は圧倒的に女性が多い、構造的な女性差別を感じる。
- 女性の地位向上を目指す男女共同参画センターであるにもかかわらず、現場の職員が有期の契約職員であるということに矛盾を感じる。給与も有給休暇の日数も県職員と差がある。
- 同じ仕事をしていた男性相談員の時給が女性相談員より高かった。
- はっきりと線が引かれ、あちら側にいる人は、もし私がこの立場だったらか子どもが配偶者がこの立場だったらと考えず、思いやりのない対応しかされない。試験選考ではないからと言われ、採用試験もしているのに、想像力が無さすぎる。
- 産休中だが、復帰は約束できないため、他の仕事を探して欲しいと言われている。

15

6-6. 緊急アンケート 自由記述から

「将来不安」を感じているのは何と！ 1,171人(93.5%)



■将来不安

- 収入微増でも、元々の給与が低く1人では生活できない不安。今の時代の公務員減や非正規で運営されている実態を知らない一部市民の無理解・無関心に対する怒り。
- 契約更新は3年まで、それ以降はもう一度試験を受けなければならない。再来年の自分の生活がどうなっているかいつも不安。手取りが少なく、厳しい生活の中で正規職員の試験勉強を続けるのは精神的にしんどい。せめて人並みの生活がしたい。
- 自治体との民間委託契約の更新が無ければ、職を失うことになる。自身の給料だけでは、生活が厳しいため、パートナーに何かあった場合、貧困家庭となる不安は常にある。
- このまま将来1人で暮らすのは難しいので早く辞めなければと思いながら、この仕事が好きなので働いている。運営上必須の資格職であるのに全員が非正規なのはどうかと思う。
- 任期が来ると更新の手続きがあり、将来が不安。正職員が減り、非正規雇用なのに責任が大きくなるが、給与は変わらず研修も充分でないため、しんどさだけが増していくのが辛い。
- 正規職員との格差の理不尽さや、自分の意思とは関係なくいつでも解雇されるリスク。
- いつまで続けられるのか不安。コロナでも出勤しないといけない不安。指定管理者が変わると失業になるので、5年ごとに不安。いつ仕事が無くなってもいいように何か所も掛け持ちしている人も周りにいる。

16

7. 今後の課題



- 今回の調査で得られたデータについて、より詳細に分析を進めるとともに、会計年度任用職員制度移行時の不利益変更の事例が多数寄せられていることから、今後、インタビュー調査を行います。
- 調査で明らかになった課題をもとに、状況改善に向けた活動や提言を出していきます。
- 労働組合、人事委員会などにつながる事ができていない公務非正規労働従事者が多数を占めています。その間をうめていくような働きかけを労働組合側、働き手、双方にしていきます。
- はむねっとの存在をより広く知らせていくことで、全国の職場で孤立している公務非正規労働従事者とつながり、当事者の声をさらに大きくしていきます。
- 私たちは、社会生活の担い手である公務非正規労働従事者状況を改善しなければ、公共サービスの受け手である、住民の不利益につながることを伝えていきます。これまで、長く、女性たちの「善意の」「がんばり」によって支えられてきた、この「安上りな公共」の構造を変える必要があると思っています。そうしなければ、次の世代に公共サービスの担い手がいなくなってしまうです。

17

最後に、ご紹介とお願い



- NPO法人げんきな図書館のURL(国立国会図書館に保存していただいた2019年6月10日時点のページ) 活動記録を発信したげんきな図書館ノートに掲載
「NPO法人げんきな図書館が図書館業務からの撤退を決めたわけ」
『出版ニュース』(2017年4月下旬号)
「第103回全国図書館大会 発表報告」2017年10月開催
<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11292169/www.genkina.or.jp/>
- 『官製ワーキングプアの女性たち』竹信三恵子、戒能民江、瀬山紀子/共編 岩波書店(岩波ブックレット)2020年9月刊
- 『生活経済政策』2021.9 No.296
- **はむねっとの活動に賛同いただける方、カンパをお願いします！**

18